

布忍神社（ぬのせじんじゃ）

開運松原六社参りのひとつ。速須佐男之尊はやすきのおのみことや八重事代主之尊やえことしろぬしのみこと・武甕槌雄之尊たけみかづちおのみことを祭神とする。社伝によると北方の天美地域の天見丘にあったものを、白布を敷いて当地に迎えたので、社名を布忍ぬのせとし、村名を向井村むかいとしたという（現北新町）。

本殿は桃山様式を受け継いだ江戸時代初期いっけんしやながれづくりの間社流造ひわだぶき。檜皮葺かえるまたである。墓股かえるまたに速須佐男之尊はやすきのおのみことをあらわす仏教でみられる梵字ぼんじがはめこまれ、神仏混淆こんこうの形をとるものとして貴重である。また、本殿正面に「布忍宮」の扁額が掲げられているが、これは宇治（京都府）の黄檗宗本山おうばくしゅう・万福寺第5世まんぶくじである高泉性激こうせんしやうとんの筆になる。本殿身舎の両側面に描かれている唐獅子かのうたんゆうは、狩野探幽かのうたんゆうが描いたと伝えている。本殿は、寛文3年（1663）5月9日、氏子の清水村しみず（現南新町）の木下氏きのしたが武運長久ぶうんちやうきゆうや無病息災むびやうそくさいなどを祈って奉納した寄付だとともに、大阪府指定文化財となっている。平成17年、本殿に使用されている木材を年輪年代測定で調査した結果、南北朝時代の1372年+ α （50～100年）に山野から伐採されたことがわかった。

拝殿には宝永2年（1705）11月13日に奉納された「布忍八景」扁額が掲げられている。布忍神社周辺の宮裏白桜、孤村夕照、野塘春日、平田秋月、南山残雪、西海晚望、竹林黄雀、籠池白鷗の八景をけやき坂で、1面に2景ずつ4面に納めた。2組つくられ、現存する6面が松原市指定文化財となっている。